

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第34号 2014年 8月15日発行 発行責任者 森川 博己

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 一般社団法人日本福音ルーテル社団

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちはわたしが見えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言っておく。私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節～36節40節



新しい遊具で遊ぶカンボジアの子供たち

JELA カンボジア・ワークキャンプとブラジル支援の成果

今年もカンボジア・ワークキャンプを実施しました。参加者 10 名とスタッフ 2 名の合計 12 名がカンボジアでボランティアを行いました。詳しくは 2 ページ以下をご覧ください。またブラジル支援の報告も 4 ページに掲載しています。

この号にはこんな記事が

カンボジア・ワークキャンプ参加者報告 ……2～3 ブラジル子ども支援報告・リポート(山田麻衣・藤崎喬史) ……4
～5 難民支援「難民に向き合う」(松浦由佳子) ……6 リラ・プレカリア「神様が働かれる時間」(横山恭子) インド・ワーク
キャンプ参加者募集 ……7 川柳ひろば・支援者一覧・映画上映会のお知らせ・編集余話 ……8



2014 年カンボジア・ワークキャンプ報告

カンボジア・ワークキャンプを 2 月 12 ～ 22 日の 11 日間実施しました。参加者は 12 人（内引率者 2 人）で、カンボジア LWM（＝Lutheran World Mission＝ルーテル世界ミッション）と協力して、コンポンチュナン地区の二つの小学校で奉仕活動を行いました。（ポール星崎）

奉仕と支援が福音宣教のプラスに！

LWM ライフセンター付近にある生徒数 347 人のクルス小学校では、JELA の支援により購入した遊具と書籍を、キャンプ参加者がライフセンターのセアンラット・モーゼ牧師と共に設置しました。滑り台、シーソーとブランコの設置作業中、大勢の生徒たちは待ちきれずに遊具に群がりました。同校のイム・チェンダ校長は、「新しい本や遊具をありがとうございます。生徒たちも大変よろこんでいます」と JELA への感謝の言葉を述べています。

これまで学校側が福音を拒んでいましたが、ライフセンターでの活動や JELA による奉仕・貢献によって変化が起きているといいます。モーゼ牧師は、「学校は福音を受け入れやすくなってきている。娘のスーザンは同校の一年生だが、担任がクラスでクリスチャンの歌を教え、みんなと一緒に歌うようになった」と話しています。

ライフセンターから車で 15 分の所にある生徒 208 人が通うヴィヘア・ルオン小学校では、本棚の寄贈と校舎の一部塗装を行いました。同校のソウム・ヘアン校長は、「生徒たちは、リフレッシュした学校で勉強できることを楽しみにしている」と話しています。

キャンプ参加者は、同地でのボランティア活動を通して、カンボジア人と共に働き、奉仕することの意味、分かち合いと祈りについて考え、体験する時間となりました。このプログラムをご支援くださった皆様に感謝いたします。

参加者のレポート

高橋 奏 「神様が用意してくれたこと」



奉仕や祈り、聖書の学びや先生のお話を通して、「たしかに神様は祈りを聞いてくださる方だ」と確信しました。苦難は苦難で終わらないことも実感しました。主日礼拝で奉仕をさせていただくこと、キャンプのスタッフをさせていただくこと、JELC 東教区の青年会の会長をさせていただいたこと、この 3 年間ワークキャンプに参加させていただいたこと、私の今までのすべては神様が私のために用意してくださり導いてくださったのだと、何も疑うことなく素直に受け止めることができました。

そして、苦難も神様から与えられる恵みだということや、こんな私でさえも神様は愛してくださるということにも改めて気が付くことができました。（JELC 東京）

河西雪菜 「異国の地で信仰の友と」



小学校で出会った子どもたちは、言葉が通じなくても、ほほ笑んだらほほ笑み返してくれて、何も会話ができなくても一緒にいるだけで、温かい気持ちになることができました。

子どもたちが帰るとき、ありがとうと、ぎゅっと抱きしめたときのぬくもりと、子どもたちの笑顔は本当に私の宝物になりました。

カンボジアの教会で出会った同年代の方々と仲良くなったことも、私にとって大きな刺激となりました。異国の地で同年代の同じ信仰を持つ人に出会えて、祈り合う関係ができた奇跡を本当に幸せに思います。（JELC 大岡山）

櫻井 愛 「共に祈る」



最も印象に残った出来事は、クルス村の人たちと共に持った礼拝とその後の同世代のクリスチャンたちとの交わりです。礼拝はクメール語で行われたため、残念ながら内容が理解できませんでした。しかし、賛美や祈り、説教の語りを聞いているうちに胸がいっぱいになりました。ここで、この人たちのために、このように毎週礼拝が守られているということが嬉しかったのです。そしてもちろん、日本でも、他の国でも、数え切れないほどの人々が同じ日曜日に唯一の神様をそれぞれの方法で見上げていることが喜びでした。（たまブラザキリスト教会）

倉野敦史 「生きること、知る喜び」



私は自身が小学生のころまでは確かに感じていたはずの、勉強することの喜び、知的探求の楽しみを思い出した。進学先や就職先や資格などといった「何かを得るための手段としての学び」ではなく「学びのための学び」というものをカンボジアで得たように思う。カンボジアで感じた人の温かさや日本に住む自分の周りの恵まれた環境に感謝することを忘れずに、何か困難が起こったとしても今回のワークキャンプで得たものを糧にして乗り越えていきたい。

関口美香 「普通を変える」



小学校の壁のペンキを塗って子どもたちの学校を綺麗にしてあげているのに、子どもたちが、自分の遊ぶグラウンドを汚し(自分たちでゴミを普通に捨て)ている。言葉ではうまく表現できませんが、なんとも複雑な気持ちになりショックでした。彼らにとっての「普通」を変えることは難しいことです。しかし、なんとかしてあの現状を変えたい、と強く思いました。(JELC 大岡山)

田島千恵子 「神様を信頼して働く人」



ライフセンターのスタッフで私と同年のボニーさんという女の子との出会いが深く心に残っています。なぜクリスチャンになったの? という話になったとき彼女は、「Because I believe in God.」とすぐに答えました。私は言い切る彼女にひどく感心し、彼女が先生をしているクラスを見に行きました。彼女と子どもたちを見ていて、以前人に教わったが忘れていた「教えるとは、共に希望を語ること。学ぶとは、誠実を胸に刻むこと」という言葉が思い出されました。私は今大学生ですが、子どもたちのようによく学び、ボニーさんのように神様を信頼して働く人でありたいと思います。(東京羽田キリスト教会)

谷口 愛 「信仰生活を省みる」



ある青年にこれまでの人生について問いました。「これまで、神の御心のままに用いられ歩んできたんだ。これからもそれは変わらない。他に御呼びがあれば、それに従うよ」。笑顔で語ったその言葉は、私が想像していたごく平凡な答えとは異なりました。全てを神様に委ね、神様のために生きている。そんな彼の生き方に、尊敬とかっこよさを感じたと同時に、自己を振り返りどことなく後ろめたさも抱きました。異文化に触

れ、何度も自分の価値観が壊されましたが、自分の信仰生活をも省みることができたことは豊かな恵みでした。多くの祈りに出会い、分かち合い、誰かのために時間を使い、考え、行動することは、とても尊いことなのだなと感じています。(JELC 大江)

沼部真奈 「共に働く」



一緒に礼拝を守り、お互いに自分の母国語を教え合って親交を深めた少女のおかげで、改めて私がなぜクリスチャンであるかを考える機会を持つことができました。彼女は、教会学校の教師であり、小学生に英語を教える働きもしていました。私自身も教会では中高生科を担当しているため、同年代の女性が神様のもとで働いている姿を嬉しく思ったと同時に、たくさんの刺激を受けました。カンボジア・ワークキャンプを体験した私たちだからこそ、日本に帰国してから何を考え、どう行動し、そして、どのような形で神様と共に歩むことが出来るかが問われているのだと思います。(JELC 大岡山)

荒井祥平 「新たな目標」



私はまだまだ成長し続けます。2年後のカンボジア・ワークキャンプに参加する形でかどうかはわかりませんが、カンボジアに必ずまた行き、English speaker の荒井祥平として戻ってきます。

カンボジアに還元できることを少しでも見いだせて戻って来られたらいいな、と思っています。(JELC 横須賀)

松岡然一郎 「ありがとう」

あらゆることを当たり前だと思わずに、感謝の気持ちを持つことが大切だと感じました。



その感謝の気持ちを「ありがとう」と言葉で表現することはとても小さなことですが、とても大きな意味を持つと思います。私はキャンプを通して、たくさんの「ありがとう」に出会いました。この小さな言葉によって、たくさん救われてきました。(JELC 大岡山)

チャブレン 竹田大地

「問いをもって終わったキャンプ、それでいい」
(日本福音ルーテル下関・厚狭教会牧師)

私はキャンプの最後の黙想の際、キャンパーにすべての事柄の中に神様の思いがある、神様の御声があるということ、そして、信仰の面においても壊されるということを経験して、自分自身の信仰を深めていってほしいということを伝えました。こういったキャンプは、全日程を終える頃には、なんだかハッピーエンドを求めがちです。でも、信仰の歩みとは、いつでもハッピーエンディングではありません。もしかしたら失意のうちに終わることだってあるかもしれないのです。苦しみや、痛み、悲しみなくして、本当の恵みはないのだと思います。自分の抱える思いの中で神様に会い、そこに響く福音があるのです。

おそらくキャンパーの多くは、問いを持ってキャンプの日程を終わったと思います。でも、それでいいのだと思います。それが、信仰をますます深め、神様の大きな恵み、愛に気付かせてくださるからです。これを読まれる方々もきっとそれぞれに多くの不条理や、痛み、悲しみを抱えた経験があったり、もしかしたらこれから抱えるかもしれません。しかし、私はあえて言いたいのです。それから目をそらさずに味わい尽くしてください。そこに必ず、なぜという問いが生まれます。しかし、その中で御言葉に立ち返り、その出来事の意味を味わい尽くしてください。そこに神様の御言葉、福音が必ずあります。そういう希望のもとに、私という人間に起こるすべての事を味わい尽くすことができるならば、それ以上の幸いは他に無いのだと私は改めてこのキャンプを通して、キャンプにきたメンバーの姿を通して思われました。

ブラジル・ボランティア報告

ブラジルの日系人教会（サンパウロ教会：JELC 徳弘浩隆宣教師）で青少年への宣教・福祉奉仕者として活動された山田麻衣さんが3月末に一年間の任期を終えました（4月から個人的に滞在を6か月延長し、今もサンパウロ教会に関わっております）。4月からは藤崎喬史さんが後任として活動されています。JELAはこの、ブラジルの日系人教会を活性化する青年の奉仕活動を支援しています。以下に、山田さんの一年間のまとめの言葉と、藤崎さんの、ブラジル到着後数か月間の活動報告をご紹介します。

「一年の任期を終えて」

山田麻衣（レーテル室園教会）

この一年で、私が持っていたブラジルのイメージは大きく変わりました。同時に自分が日本人であることや、日本という国について、強く意識する一年でもありました。私が暮らしたサンパウロは、東京のような大都市でした。一方で、都市を離れたところには、ファベラ（スラム街）があり、厳しい生活を強いられている人が身近にいます。そしてさらに田舎に行けば、多くの自然が残り、生活の足として馬を使うような日常が見られます。

この一年でブラジルや、関わったコミュニティにおいて、何ができたかわかりません。でも、少なくともブラジルは私にとって大切な第二の故郷となりました。今後は、ブラジルに居た経験を生かしたいということ以上に、ブラジルへの恩返しをしたいと思っています。日本にもたくさんの日系ブラ

ジル人が住んでいることを、ブラジルに来てから知りました。ブラジルからいただいた明るさ、優しさを、今度は私が周りに届けていきたいと思っています。ご支援とお祈り、本当にありがとうございました。

「意気軒昂な教会」

藤崎喬史（レーテル恵み野教会）

JELAの皆様のご協力によりブラジルの地でボランティアの活動ができることを心より感謝します。4月16日早朝、無事にサンパウロ空港に到着し、新しい生活が始まりました。

イースター礼拝での二つの気づき

一つ目は、日本との比較になりますが、イースターエッグを作る際に日本でよく見られるのは、卵の中身を抽出して殻にデザインを加えたモノですが、サンパウロでは卵の形をしたチョコレートを作ります。そして、街中のお店でバレンタインのチョコレートのように販売されていました。ブラジルが宗教国、特にカトリック教が多く見られる国であり、習慣がしっかりしていることに関心を持ちました。二つ目に、前任者である山田麻衣姉のサンパウロ教会における存在感、持ち前の元気の良さ、意気軒昂な教会全体の雰囲気を感じ、私自身も山田姉と違った賜物を持って教会の活性化に努めようと感じました。

ジアデマ集会所での体験

JELAのプロジェクトで支援をしてこられ

たジアデマ集会所で、ポルトガル語礼拝を初体験しました。この時、初めて言語の大きな壁に当たりました。その場に子どもたちがおり、コミュニケーションが難しかったのでボール遊びを通

して対話を試みました。ボディ・ランゲージを活用してどうにか打ち解けることができたと思っています。これから私自身が子どもたちにどんな支援ができるかを考えてみようと思いました。

聖霊降臨祭（ペンテコステ）

ペンテコステについて新約聖書の「使徒言行録」に、「一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。」という箇所があります。今年は、礼拝の式の中で日本語、ポルトガル語、英語、スペイン語、中国語、ベトナム語で御言葉を読み上げ、霊に癒され、元気づけられ、動かされて毎日を送り出されるようにという試みが行われました。私は、ベトナム語を大学時代に専攻語として勉強していたので、こちらに来て初めて賜物を用いていただいたことに感謝でした。心に火が灯されたような礼拝がありました。

今後の活動

サンパウロ教会での奉仕をしつつ、ジアデマ礼拝所での子どもたちとの関わり合いを続けること、また、ブラジル人牧師であるMELO先生と共に音楽を通して今後の教会活動などを盛り上げられるようにお手伝いすることを考えています。さらに、青年伝道や交流のためにアニメをツールとした日伯交流のイベントを教会で実施することを牧師との話し合いの中で提案し、取り組むことが決まりました。企画の細部を詰め、自分ならではの活動や奉仕に取り掛かりたいと思っています。



得意のサックスで礼拝奉仕をする山田さん



家庭集会で証しをする藤崎さん

ブラジルの子どもたちから笑顔が届きました



JELA は世界の子ども支援事業の中で、リオ・デ・ジャネイロにある保育所「よきサマリア人ソーシャル・センター」(Centro Social Creche Bom Samaritano。以下「Centro」と表記)を 2006 年から支援しています。ブラジル福音ルーテル教会の社会福祉活動の一環として 1979 年に設立され同地のルーテル・コミュニティを形成する施設の一つです。2006 年には非営利法人としての認可も受けています。子どもたちの笑顔と共に、Centro の最新ニュースをお届けします。

Centro の活動

主な活動は、貧困地域(ファヴェーラ)に住む 2 ～ 6 歳の子どもたち 100 人のデイ・ケアとその家族へのサポートです。入所してくる子どものほとんどが栄養失調なので、Centro では子どもたちの発育のために栄養価を重視し、一日 4 回の食事を提供すると同時に両親への栄養指導も行っています。また、感染症や疾病を想定した予防衛生にも力を入れています。

2009 年からは、ボランティア歯科医師による施設での口腔衛生指導と治療を開始、2012 年には、障害を持つ子どものためのスタッフを確保し、脳性麻痺とダウン症児を受け入れました。

JELA の支援

これまで JELA は、Centro に対して食事提供と制服購入の補助をしてきました。昨年は、皆様のご支援により、約 30

万円(施設の 1 カ月分の食費)を寄付することができました。

2013 年末に Centro から緊急の連絡が入りました。施設で使われている遊具が老朽化しており、思わぬ事故につながりかねないため一刻も早い対応が求められるが、財政的に自力での遊具導入が困難だという内容です。JELA では、Centro が遊具設備を教育プログラムの一環として取り入れており、また周辺の環境や治安が悪いことから、施設内に子どもたちが安全に遊べる場所や設備が必要であると判断し、この 1 月末に 4000US ドル(約 41 万円)の寄付を贈りました。遊具設置及び人工芝の取替に必要な費用の約半分に相当します。

子どもたちの未来のために

新しい遊具を導入することができ、子どもたちは笑顔で新しいブランコや滑り台で遊んだり、人工芝の上を走ったりしています。Centro の担当者は、「安心して遊べるのが子どもたちにとっては何より大切です。遊具やゲームを通じて、子どもたちは人とのつながりを学びます。遊びの空間は社会性を育むことができる重要な場所であると考えています。援助してくださりありがとうございます。」と語っています。

JELA の支援者の皆様、今後ともブラジルの子どもたちのための寄付とお祈りをよろしくお願いいたします。

2014 年 チャリティコンサートのご報告

5 月 17 日から全国 7 会場で行われた「世界の子ども支援チャリティコンサート」が無事に終了しました。今回のコンサートには合計 559 人の来場者があり、534,470 円の献金をいただきました。ありがとうございました。すべての会場で上野由恵さん(フルート)と圓井晶子さん(ピアノ)の息の合った共演が楽しめ、多くの来場者から「素晴らしいかった」との感想をいただいております。

ご来場くださった皆様、会場をご提供くださった皆様ほか、ご支援くださったすべての皆様に、心から感謝を申し上げます。

会 場

- 5 月 17 日(土) 日本福音ルーテル岡崎教会
- 18 日(日) 日本福音ルーテル神戸東教会
- 25 日(日) 日本福音ルーテル長野教会
- 31 日(土) 日本福音ルーテル博多教会
- 6 月 1 日(日) 日本福音ルーテル熊本教会
- 7 日(土) 日本福音ルーテル松本教会
- 15 日(日) 日本福音ルーテル保谷教会

後援団体(順不同)

熊本日日新聞社、RKK 熊本放送

協賛団体(順不同)

三井不動産リアルティ株式会社、株式会社ハリファックスアソシエーツ、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社、株式会社西村建築設計事務所、有限会社リフォーム・イケ、野村證券株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング、本郷学生センター、伊達工業所、小林商事株式会社、前田建設工業株式会社、米白餅本舗、徳一、ネットヨタ中九州株式会社、肥後銀行、ピラージュ、フェリシア、熊本石橋葬儀社、メルバルク熊本、九州学院、九州ルーテル学院

【コンサートの感動をご自宅でも!】

■音楽ダウンロード(1 曲から購入可能)

コンサートで演奏された『いつくしみふかい』と『アメイジング・グレイス』(くすしき恵み)を含む、上野さんと圓井さんによる讃美歌集 CD のダウンロード情報は、JELA のホームページをご覧ください。

■通常のパッケージ CD (2000 円+送料) も事務局では販売しております。ご希望の方は、JELA チャリティ CD 係 までお問い合わせください。

住所: 150-0013 渋谷区恵比寿 1-20-26 日本福音ルーテル社団

TEL: 03-3447-1521 / FAX: 03-3447-1523

E-mail: jela@jela.or.jp

難民に向き合う

開発コンサルタント 松浦由佳子

はじめに

JELA 難民委員を務めさせていただき、2 年がたちました。難民委員の主な活動は、JELA が主催する年 3 回のルーテル難民協力懇談会に参加し、難民支援団体や関係省庁、UNHCR のお話を伺い、日本にやってきた難民の方々の現状や抱えている課題、認定の動向を把握して、JELA の難民支援活動との調和を図ることです。難民協力懇談会は 1989 年から 25 年にわたり続けられ、難民支援にたずさわる関係者が、所属組織を越えて風通しのよい状態を保ち、調整・連携して難民支援に取り組む雰囲気づくりに一役買ってきました。

このたび、JELA 難民委員として、また一人のクリスチャンとして、難民にどう向き合うか、みなさまと共に考える機会をいただき、感謝しております。

難民の状況

今、世界では 5,000 万人を超える人々が、紛争、迫害や人権侵害などによって生まれた土地を離れ、避難生活を強いられています。シリア、イラク、ウクライナなどの紛争が難民流出に拍車をかけ、日本にも多くの方がたどり着いています。昨年一年間に日本で難民申請した人の数は 3,000 人を超えました。これに対し、難民と認められたのはわずか 6 人。前年の 18 人から大幅に後退しました。数千～数万人単位で難民を受け

入れる欧米諸国とは比較にならない少なさです。お隣の韓国でも 2012 年一年で 79 人が難民認定を受けています。

不認定となった人は在留資格が切れた時点で「不法滞在」となり、迫害を受ける恐れのある母国や他国に強制的に送り返されることもあります。命と賜物を与えられた人々が、ひとたび難民となり母国をあとにすると、法的にも社会的にも弱い立場に置かれ、避難先で難民認定されなければ賜物を活かす機会を奪われ、時に犯罪者のように扱われる——このような現実をどう受け止めたらいでしょうか。

クリスチャンとして難民に向き合う

幼子だったイエスもヘロデ王による迫害を逃れ、両親と共にエジプトに避難しました。まさに難民状態です。この主イエスが私たちに、「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです(マタイ 25:40)」、「兄弟愛をいつも持っていなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません(ヘブル 13:1-2)」と言われます。難民の要件や認定されたか否か、という律法主義的な見方にとらわれない兄弟愛、隣人愛の実践です。

教会、そしてクリスチャン一人ひとは、異国の地で難民状態にある人々に向き合うことを期待されているのではないのでしょうか。もちろんそれは簡単なことではありません。例えば自分の家の隣に中東から逃れてきた難民家族が引っ越してきたら、どう感じるでしょうか？自分の心の奥底に、貧しい地域や紛争地の人々、異質な者への恐怖心、差別、

あるいは無関心がないか、また彼らを教会や自分たちの生活圏に受け入れ、支えていく覚悟があるかと自問し、己の心の貧しさを見ることがあるかもしれません。私自身は、グローバルな世界に目を向けると言いながら無意識に「国」というレンズで物事を眺め、思考や行動が「国」中心の枠組みに捕らわれすぎて、難民認定制度やその制度運用の前に無力感を覚え、落胆してきました。そしてその中で、主に拠り頼むことを学びつつあります。

「難民」という捉えどころのない顔の見えない存在ではなく、困難な状況にある一人のひと「A さん」を「人」として知るところから、すべてがスタートすると思います。A さんと向き合うなかで、自分の視野の狭さや弱さ、力の無さなどを正直にキリストの前にさらけ出し、数々の限界を前に祈りつつ、できることを探るところから私たちの難民支援は始まると思います。傷んでいる人をほっておくわけにはいきません。



タジキスタンでの松浦さん

JELA は、難民／難民申請者のためのシェルター、JELAハウスで日本語教室の開催や交流イベントを行っています。(電話 03-3447-1521)。

また認定 NPO 法人難民支援協会では、日本にいる難民の現状を知り、行動するための足がかりとして「RefugeeTalk—難民を学ぶタベ：体験型ワークショップ」や「難民アシスタント養成講座」を定期的に開催しています。ご関心をもちたたら、一度、足を運んでみてください。

(<http://www.refugeeorjp> 電話 03-5379-6001)



「Amazon」から JELA に十万円!

JELA のホームページ <http://www.jela.or.jp> 上に「Amazon」のリンクボタンがあります。7 月 15 日現在、累計で 1,206 件のお買い物をこのリンク経由でいただいたことにより、108,160 円の広告料(寄付金)が Amazon から得られています。皆さまのご協力を心より感謝申し上げます。引き続きインターネットでのお買い物は、JELA ホームページ経由の Amazon でお願いいたします。お買い求めになった金額の約 3%が JELA への寄付となる仕組みです。皆様には金銭的な負担はありませんのでご安心ください。

リラ・プレカリアの活動は通常、ベッドサイドへ訪問して利用者さんの呼吸に合わせて1対1のご奉仕をさせていただいていますが、東日本大震災以降は新たな奉仕のスタイルが与えられるようになってきました。今回は、仮設住宅に定期的に奉仕訪問をされている修了生の方にその様子をご報告いただきました。

神様が働かれる時間

3期修了生 横山恭子
(仙台聖書バプテスト教会)

三年前の東日本大震災で被災された方々が暮らしておられる、美田園第二仮設住宅にリラ・プレカリアのご奉仕に合うようになってから1年半が過ぎ去ろうとしています。この仮設住宅は仙台空港の近くにあり、住宅が流失したり家族を津波で失った方など約200名の方々が暮らしています。復興住宅の建設は遅れており震災から3年たった今、やっと今年の12月から第1期の移転が始まり来年の9月までかかって移転することです。私自身も津波の被害を受けましたが家は流されずにすんだため修理して住むことができていますので、皆様の心労を思うたびに本当に心が痛みます。そのような状況の中で毎月第4木曜日の午後に教会のメンバーたちと訪問させていただいています。

仮設住宅の集会所に20名ほどの方々が集まり座布団を敷き、ほとんどの

方は横になりますが壁によりかかり目を閉じて聴いている方もいらっしゃいます。私たちが学んだリラ・プレカリアのハーブと歌はお一人の方の呼吸に合わせて奏でられますが、集会所では複数の方に向けて行うため、最初はどうかしたら良いのか本当に困りました。照明を少し落としてアロマキャンドルを灯した後、心の中で祈りながらハーブを弾き始めると横になっておられる方々の姿が目に入ってきて、私は「そうだ、一人の呼吸に合わせることは出来ないけれども皆様の様子を見ながらテンポや音量を決めたらいいのではないか」と思いました。40分ほど奏でるのですが、しばらくして誰かのいびきと寝息が聞こえてきたとき、ここに集まっておられる方々が安心して神様の御手の中に身を委ねて休んでおられるように感じたのです。

リラ・プレカリアのハーブと歌は末期の患者さんだけでなく、大きな喪失感を抱えてつらい思いをされておられる方にも安らぎのひとつを提供できるのではないかと思います。ハーブの音が静かに響き始めると、やがてクロノス(*一般的な生活時間)からカイロス(*神によって定められた特別な機会)へと時間の流れが変わり始めるのがわかり、聖霊の風がやさしく私たち全員を包んでくださり、癒してくださるように思います。

リラ・プレカリアのハーブと歌は「演奏ではなく祈りです」と何度も学んでいたときに説明していただきましたが、実際にご奉仕させていただくようになってから、その言葉の意味の深さを実感しています。私の力ではなくハーブと歌を通して神様ご自身が働いておられるのだと確信しています。



インド・ワークキャンプ 2015 参加者募集

以下の要領で参加者を5～10名前後募集します。申込期限は2014年11月11日(必着)です。

◆派遣期間：2015年2月12日(木)～22日(日)11日間

◆派遣先：インド、マハラシュトラ州、ジャムケッド村にある医療福祉施設 CRHP(Comprehensive Rural Health Project=総合的地域健康プロジェクト)

◆内容：義足作り、学校・病院訪問／信仰成長プログラム

◆参加費用：18万円

パスポート、海外旅行保険費用、派遣確定者説明会と出発・帰国時の集合場所から居住地までの交通費や、前泊・後泊する場合の宿泊費用については、上記の参加費とは別に個人負担となります。

◆問い合わせ・申込用紙請求先：

JELA インド・ワークキャンプ係り

150-0013 渋谷区恵比寿 1-20-26

日本福音ルーテル社団

Tel：03-3447-1521/Fax：03-34477-1523 / E-mail: jela@jela.or.jp

◆選抜方法：2014年11月11日までに到着した申込書の中から派遣者を決定し、11月中に結果を申込者に連絡します。

<注意事項>

!どなたでも参加できますが、聖書を学び話し合う時間が毎日あり、すべての行事に積極的に加わることが求められます。

”数名のスタッフが日本から同行し、霊的・語学的面で参加者をサポートします。

派遣確定通知受領から出発までの間にキャンセルされる場合は、その時点までに発生した費用をいただくことがあります。また、新型インフルエンザの蔓延等、諸事情により日本からの派遣を中止する場合があります。JELA からキャンセルする場合は、払込み済みの参加費はご返却します。

\$ 渡航にはパスポートが必要となりますので、お持ちでない方、更新が必要の方は、派遣確定通知受領後速やかに取得手続きを行ってください。

(2014年2月1日～5月31日)

映画上映会のお知らせ



19世紀に終止符が打たれたはずの人身売買・奴隷制が、過去に引けをとらない残忍性と力を持って、この21世紀に再び現れてきました。9月に恵比寿のJELAホールで上映予定のドキュメンタリー映画『ネファリアス——売られる少女たちの叫び』は、アムステルダム、タイ、カンボジア、アメリカなど世界各地で蔓延する性的人身売買の現状を描いた作品です。犠牲となっている子どもや女性には「私には価値がない」と自己否定に囚われて苦しんでいるのです。JELAは、このような人身売買の撲滅を目指して活動している団体 Not For Sale Japan (ノット・フォー・セール・ジャパン NFSJ)による本作品上映事業に会場提

供の形で協力します。そして、私たち一人ひとりを愛してくださる神様の愛によって彼女たちが自尊心を取り戻し、未来に希望を持てる日が来ることを祈ります。人身売買や児童労働問題を一緒に考えてみませんか？ 皆様のご来場をお待ちしております。

■日時：9月27日(土) 14時上映開始(13時45分開場) 17時終了予定

■内容：映画(約90分)上映後、日本における人身売買について NFSJ からお話を聞き、Q&A とディスカッションの時間を持ちます。

■場所：恵比寿・ジェラ・ミッションセンター 1階ホール(電話 03-3447-1521)

※当日の問合せは不可)

■参加費：無料

■その他：高校生以上のご参加をお勧めします。

■問い合わせ先：メール

japan@notforsalecampaign.org
(NFSJ 山岡)

穂田信子／阿波田絹子／安藤淑子／井上秀樹／岩間雪子／WEST東京エコー・チャーチ／公益財団法人ウェスレー・フアウンデーション／大石千絵／大谷忠雄／大塚眞佐子／岡部瑞子／織田有紀子／小野崎良子／加藤裕子／金成朋子／上窪松子／神崎伸・淳子／京谷信代／倉知延章／小島拓人／小菅可代・裕司・十六夜／小杉由子／酒井恵美子／佐藤たか子／三五康子／篠崎智恵子／下条知加子／鈴木やす／高尾堯／高田紀子／高津和子／高橋ふく子／高橋要子／高橋悠美子／高元千恵子／武田光世／田中淑子／JELC玉名教会／田山かほる／日本キリスト教団津山教会／長田ひろみ／西千恵／野上きよみ／野田千恵子／馬場孝夫／早瀬康平／福嶋知恵子／保坂和子／星野幸子／細田真理／前川隆一／南節子／宮澤真理子／牟田青子／森田雅子／森保宏／矢田絵美／山本一男／若原奇美子／渡辺聡／Alice Sanoden／女性会連盟東海教区女性会／世界のこども支援チャリティコンサート席上献金／その他匿名複数

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

川柳ひろば 入選作品発表

お待ちいたしました。川柳ひろば第一回入選作品を発表いたします！

四月のジェラニュースでの告知から六月末の締め切りまでに百三十句余りが寄せられました。その中からキリスト教界の川柳第一人者・柏木哲夫先生(金城学院学院長、淀川キリスト教病院理事長)のお眼鏡にかなったのは次の四作品です。おめでとございませう！ 近日中に景品(星野富弘・詩聖書セット)をお届けいたします。

◎最優秀作

・献金に小銭も添える律義者(四迷亭)

○佳作

・山の神聖書のようなことを言う(春命)

・免許証の写真は皆犯罪者(マリ・ハルD)

・完売した店先で知る視聴率(羊野さんぽ)

ご投稿くださった皆様は、次回入選あるいは連続入選を自覚して作句に励んでいただければと存じます。未参入の方への投稿呼びかけもよろしく願います。また、今回の入選作品を鑑になり、「これなら私も作れそう」と感じになった方は、その気持ちが消えないうちに、作品をお寄せください。落選した作品にも捨てがたいものが多数あります。それらの一部はJELAのホームページで随時ご紹介させていただきます。いろいろな事業の最新情報を毎週とりあげていますので、ホームページのニュースブログ欄を時々ご覧いただくと幸いです。

次回の応募スケジュールは次のとおりです。

投稿締め切り 10月末日までにJELAに送ってください。12月発行のジェラニュース誌上に入選作品を発表します。落選作品の一部はホームページで紹介いたします。

ジャンル分け 次のジャンルを設けます。

1 年末にちなんだもの(冬至会、クリスマス、冬休み…)

2 キリスト教やイエスの福音に関するもの

3 無ジャンルなんでもOKです

景品 入選者に星野富弘・詩聖書セットを差し上げます。複数回入選者には、毎回別のセットを差し上げます。

川柳ひろばのご要望・ご意見がございましたら、ご遠慮なくお寄せください。(川柳ひろば管理人・森川博己)

【編集余話】 マザー・テレサの言葉とされる「痛くなるまで愛しなさい」について、バレンタイン・デ・スーザ神父は寄付を例に説明する。「寄付をする際に、あなたは何かを犠牲にしましたか。あなたの大切な物を手放す、あるいは欲しかった物を我慢することで寄付をしましたか。もし余っている物、あなたにとってどうしてもよいような物を寄付したのだとしたら、それは愛によるものではありません。人に何かをしてあげるとき、あるいは物をあげるというときは、自分の一番大事な物を犠牲にする気持ちでしてあげてください。自分の大切な物を失う痛みを感じること、その痛みによってわずかでも相手の辛い状況を共有することが大切なのです」(『人生を祝福する「若い」のレッスン』幻冬舎ルネッサンス、2013年、46頁以下)。寄付の真髄にふれる言葉として忘れないようにしたい。(M)